

2021年6月24日

## 東急建設株主総会 質問

上郷開発計画は、鎌倉市に接する横浜市栄区の緑地 10 万㎡を潰し住宅と商業施設用に宅地造成を行うというものです。

- 1 菅総理の施政方針に、温暖化対策とグリーン社会の到来が織り込まれましたが、上郷開発は国の方針に逆行していませんか？

(回答) 開発は横浜市が認定している。経営に SDG s を取り入れておりグリーン社会に反していない。

- 2 気候危機に対し、世界の潮流は 1 兆本の木を保護、修復、成長させようとしています。上郷開発は緑地を破壊するもので、東急建設は世界の潮流に逆行していませんか？

(回答) バランスの取れた開発で、社会の潮流に反していない。緑地保全や生物多様性に配慮している。

- 3 アップルは、2 億ドルを投資し 1 億本の植樹に着手しました。セールスホースは、2030 年までに 1 億本の植樹計画を設定し横浜で行われた国際会議では参加者数に応じた植樹をすると宣言しました。気候危機対策として、世界は今森林を保全する事が必須の要素となっています。東急建設も、これを機会に上郷開発を凍結し緑地の破壊を止め植樹計画に参画し、グリーン社会のトップ企業に名乗りを上げませんか？

(回答) 質問に直接回答せず、環境に配慮しバランスの取れた開発で最善の策を市と協議している

- 4 地権者還元地は、造成地の大部分を占めますが農地の 1,000 倍にもなる税負担で地権者を苦しめる事になりますが、地元地権者から最新の意見を聞いていますか？

(回答) 地元の人や環境団体と話している。今後も話し合いは続ける。

- 5 東急建設は、横浜市環境アセスで・風害・埋立て偏土圧による道路崩壊・産業廃棄物埋め立てという、安全問題を隠蔽した不適切な資料で審査を通

しました。安全上、解決不可能な問題を抱える、上郷開発は中止するべきではありませんか？

(回答) 環境アセスは横浜市が認めている。風害不正資料の事実はない。偏土圧についてアセスは適切に審査された。産業廃棄物埋立ては横浜市の許可基準に基づいて協議し進めていく。

6 上郷開発は、1990年にバブル崩壊で棚上げされた計画です。現在は住宅も商業施設も過剰な上、気候危機で緑地の必要性が叫ばれています。東急建設は、経営方針に掲げているSDGs 15.2は森林減少の阻止・回復・増加です、これを実現のため上郷開発を緑地保護事業に転換しませんか？

(回答) 東急建設はサステイナブル経営をしており、上郷開発は自然を保全出来るものと考えている。